

研修名	マネジメント 保育実習への対応
	令和元年10月29日(火) 13:30~16:00
講演	「共に成長する保育実習」 「実習ハートブックの活用について」
講師	京都造形芸術大学 教授 浦田雅夫氏 みんなのき三室戸こども園 園長 杉本一久 氏

1 講演要旨

○共に成長する保育実習

1) 保育士養成校の現状と課題

- ①保育士養成校の四年制大学が増えている
- ②私立大学の定員割れが深刻になっている。特に短大。
 - ・客=子ども
 - ・難関校以外はほぼ入れる
- ③ブラック保育士キャンペーン ・しんどい、給料が低いなど高校で言われていた
- ④給付型奨学金 ・2020年4月~新制度がスタート
 - ・対象は住民性非課税、準ずる世帯の学生
 - ・生活保護世帯、貧困世帯、社会的養護を受けている子ども達の進路保障

○日本の保育士の自己肯定感最低

18年 OECD 調査(2019年10月25日 共同通信より)

「社会から評価されている」日本の保育士31%。仕事をめぐる自己肯定感が韓国など8か国中最低。

- ・他業種と比べて給与水準が低い。子どもの命を預かる責任は重く、仕事の中身に見合わない。低い給料が自己肯定感の低さにつながったと言えそう。
- ⑤パーソナル・ティーチャー制度
 - ・現在、大学で取り入れられる。 ・色んな背景、それまでのプロセスがある子に配慮したもの。

2 保育実習の現状と課題

①養成校における保育実習、教育実習

- ・保育実習Ⅰ(保育所) → おおむね10日間 2週間
- ・保育実習Ⅰ(施設) → おおむね10日間 2週間
- ・保育実習Ⅱ又はⅢ(保育所または施設) → おおむね10日間 2週間
- ・教育実習(幼稚園) → 4週間
- ・保育士資格…実習に行かなくても、幼稚園教諭免許があればとれる(現制度としては)
- ・実習と実習指導の時期が休み時にかたよっている。

3 自己成長感を感じるサポート

- ・振り返って、色んな勉強になった。私が成長できているなという感覚になれるように。

4 保育実習に先立つインターンシップ プレ実習

①体験的実習

- ・保育士になりたいと思う気持ちが高まる(インターンシップ、プレ実習)
- ・施設実習による成長 リアリティショック 自信を失う子もいる ・養成校における事後指導

5 スーパービジョンという視点

- ①教育的機能・・・保育のプロを育てる。教育という視点。知識・技術・倫理の伝達。
- ②管理的機能・・・実習生が保育園という組織の中で適切に実習が行えるようマネジメント。
- ③支持的機能・・・担当者と実習生との信頼関係をベースとした支援関係。

○実習ハートブック

実習生と保育者の園（縁）結び ～保育者としての基本姿勢を分かち合い、あたため合うために～

1 保育を取り巻く現状と背景

- ・人材確保・・・少子化、人口減少、地域格差
- ・人材育成・・・時間的制約、育成・指導とメンタルケア・サポート

必要な人を選択、起用する時代から多様な人材、多様な働き方及び IT、AI 等の活用、開発を視野に入れてマネジメントする時代へ。

2 実習ハートブックの成り立ち

3 実習ハートブック作成に込めた思い

- ・実習ハートブックの作成・改定作業を通じて課題を吸収し、指導の質の向上につなげたい。
- ・子どもの未来、保育会を盛り上げていきたい。

4 保育についてじっくり考えてみよう

5 保育所版第三者評価基準より

6 第三者評価 人材育成・実習の関連項目から

7 実習園と養成校の互恵的連携

8 様々な立場・視点からの指導への困惑

- ・リーダー、サブリーダー 立ち位置による仕事意識の違い ・得意分野、好み、優先順位
- ・クラス運営と子ども理解 一人一人の子どもへの対応 ・指導力と共感力 など

これらを整理し、指導の土台を共通化すること、理想の保育を実現する者同士の心と心をつなぐ指導者としてハートブックは完成した。

9 実習ハートブックの活用と各項の意義

①実習生の皆さんへ。保育実習への誘い。→ウエルカム宣言、実習への意欲を高める基本姿勢を明文化。

②実習前の準備をしよう。→実習事前指導、あいさつ・マナー等の懇談会で出された園の意見を反映。

③実習中のポイント。→身に付けてほしい基本的態度。

(1) 保育者の心構え→自己チェック

(2) ・挨拶→対話的態度を学ぶ ・安心と安全への参画→養護の基本的態度を学ぶ

・日課→「場」を構成するもの。「もの：環境構成」「時間：見通し・段取りする力」

「チームワーク：意図の理解、行動の理由の把握から協力・配慮へ。報連相等の自分情報の発信法を学ぶ」

・保育のねらいと方法及び子ども理解の基本的態度の指導を通して、指導者自らが自信の保育に対する責任を自覚・再認識すること。実習生はねらいと意図及び保育の方法、子ども理解の基本である「受容と共感」について学ぶ。

・生活の共同者としての実習生

・子どもの興味や関心への洞察・省察力の向上。

・応答的態度、対話的態度の習得⇔非言語コミュニケーション、リズム、タイミング、間など子どもの主体性を引き出す様々なやりとりを学ぶ。

・遊ぶの環境構成→環境を通して行う保育の意義を学ぶ。

(3) 実習日誌・記録の書き方について学ぶ

(4) 訪問指導→生きた訪問指導となるように、園と養成校が連携し、丁寧に指導すること。

<考察>

私自身の学生のころとは変化して来ている事も多いけれど、実習ハートブックにより、実習生も園側にとってもより良い実習になるのではないかと感じた。昔よりも実習生をととても大切にしているように思うし、とても園側が配慮しているように思う。実習生に対して、子ども達の保育と同じ様に、自己肯定感が持っているように指導していく事が求められているのだと考える。

そして、実習生も一人一人色んな育ち、背景がある事を理解して、配慮が必要な場合も出てくるかと思うが、実習生はこうあるべきだという考えは持たず、信頼関係をベースとしながら、適切な指導ができるよう、私自身の人間力を高めたいと強く思う。

本園でも、実習ハートブックの活用を検討し、共に成長できる保育実習を目指したい。

(記録 あひるが丘こども園 山本笑美)